

社会交流会館 第5回企画展『風見 治遺作展』について

日 時:令和元年5月13日(月)~9月30日(月)迄

9:00~16:30 ※土・日曜日、祝祭日は休館

場 所:星塚敬愛園社会交流会館

【風見 治さんプロフィール】



『これまでの風見の人生は「らい」であったと評した人がいる。いま彼はそれをたしかにうけとめる。「らい」ハンセン病と診断されたのは小学校5年の時であった。病気の怖さより、学を休める事をひそかに喜んでいた少年は、半世紀を余る人生を生きて、63歳。いま、ここに在る。人はいかなる理由によって人に優れ、人は何ゆえに人に劣るのか。思春期もなく青春を謳うことも出来ず、ひたすらに滅びて行く己が肉体を凝視しつづけた日々。幅広の大きい振子のような人生を生きてみようと決意した刻。それから喜びも悲しみも痛みも、己が胸に積み重ね、それでも癒えぬ心の渴きにあえぎつづけ、いま、63歳。言葉をつむぎ色を織なし、くびきから解き放たれる日を望み、その訪れの音をききながら、いま、新しい視覚の座をここに据える』

1996年(平成8)個展会場に掲げられた風見さんのメッセージである。風見さんの『鼻の周辺』出版と個展の準備中に「らい予防法」が廃止(平成8年4月1日)になった。(自治会機関誌:姶良野盛夏号:通巻261号に掲載)

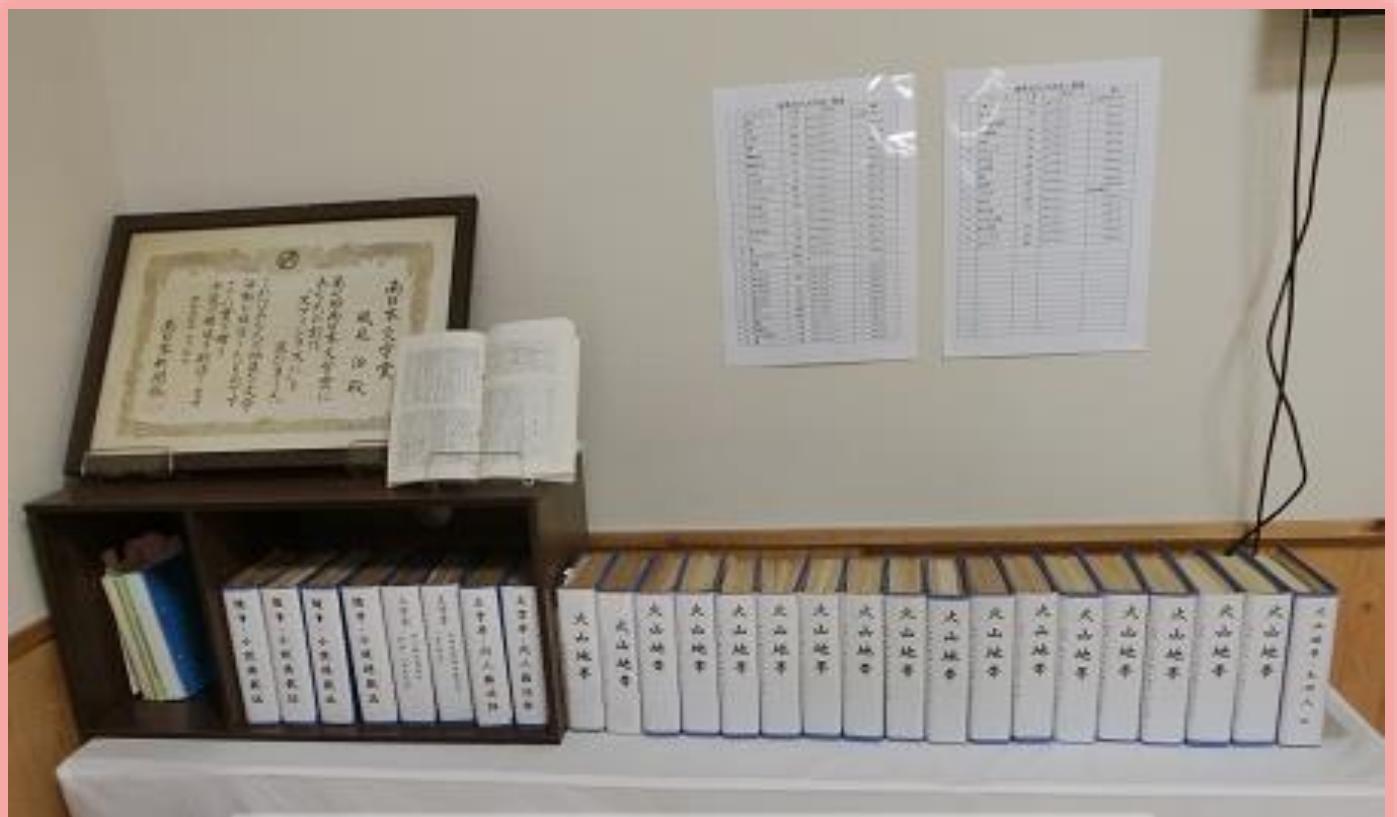
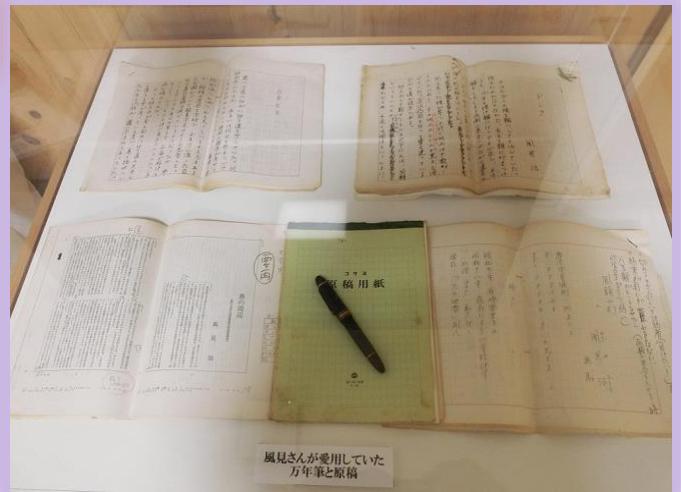
『今年も何時ものように時が流れ、家主が居なくなった庭には、木蓮と椿の花が咲き、ゆずり葉が風にゆれています。筆をとり、ペンを走らせ、愛犬のムンクと戯れている貴方のお姿が見えるような気がします。そんな治(春)です。』 2019(令和元年)5月

展示の様子



企画展は
社会交流会館ホールで
行っております

風見さん愛用の
万年筆と原稿



南日本文学賞と作品の数々

